

(株)城成

代表取締役

PICK UP

THE PERSON

# 藤原 直城

KEY WORD

仲間

— nakama —

「私一人でできることはたかが知れています。助けてくださる方々に恵まれて、ありがたい限りです」——  
20代前半で独立を果たし、ここまで走り続けてきた藤原社長。  
今では、従業員や協力会社を含めて、30名近くの人々と共に仕事をしている。  
そんな方々に向け社長は、「感謝の念に堪えません」と思いを口にした。  
共に支え、助け合う中で信頼関係が生まれ、チームワークとなる。  
それが良い仕事につながり、未来への道を切り拓くこととなった。  
社長はこれからも、周囲の方々と肩を並べ、さらなる高みを目指していく。



「人の力を借りながら進んできた。  
周囲の方々は、私にとって財産です」



# 株式会社 城成

【本社】岡山県倉敷市福井 368-52

【水島工場】岡山県倉敷市連島町鶴新田 3044-5

URL: <https://www.josei-n.com>



代表取締役

# 藤原 直城

岡山県倉敷市出身。大工だったおじに憧れて、自身も大工として社会への第一歩を踏み出す。その後地元の仲間と一緒に仕事をスタート。配管工事に携わり、約3年後に独立を果たした。現在は、プラント設備の管工事をメインに、どのような規模の工事でも対応できる体制を整えている。



## 藤原 直城

対談  
ラッシャー板前

まずは、「城成」さんの業容から。

プラント設備の配管工事を専門に手掛けている。新設工事はもちろん、日常的に行われる保全工事や定期的な補修工事なども行っております。様々な材料などが流れる配管は、高温、低温、高圧、振動などによる過酷な環境下で日夜稼働し続けており、内部の付着や劣化などによる生産性や安全性の低下は避けられません。生産現場が滞りなく稼働し、産業界が成長し続けるためにも、配管の補修工事は欠かせない、大切な業務なのです。

## 配管工事に留まらない新たな挑戦を 仕事を心から楽しめる環境作りにも注力

岡山県倉敷市を拠点に、水島コンビナートのプラント設備の管工事をメインに、附属した補修工事・増設工事・新規工事などを手掛けている「城成」。藤原社長は、時代の流れを読み取り卓越した技術者を育成し、お客様の期待に応えている。また、今後は趣味から仕事につなげたアクアリウム関係や、ドローン事業にも注力し、会社の新たな柱を作る構えだ。本日は、社長のもとをタレントのラッシャー板前氏が訪問。インタビューを行った。

藤原社長は、何故この業界に？

私の経歴に沿ってお話させていただきます。まずと、大工だったおじに憧れて、建築科のある学校で学びました。卒業後には、学生時代の仲間たちと共に過ごす中で、一緒に仕事をするようになっていったのです。その中で出会ったのが、配管工事でした。それまでは、若気の至りからなかなか仕事が続かないこともあったのですが、人に思われてこの仕事は長く続けることができました。とはいえ、迷惑もたくさんかけてしまいました。

でも、今では独立まで果たされて。ご立派だと思います。

20代前半で一人親方として独立してから、人の力を借りながら生きてきました(笑)。当時は子どもが生まれたタイミングということもあって、「やるしかない」と必死でした。とにかく一生懸命仕事をし

て、人に見てもらえないかと思っていました。とはいえ、一人でやるには限界がありました。周囲の方々の力を借りながらでした。助けてくれる方がいるというのは、本当に財産です。お陰様で、仕事は途切れず頂けて、会社として成長してることができました。

社長の努力があったからこそ、皆様も力になりたいと思われたのでしょうか。

いえいえ、当時の私はまだ未熟で、できる仕事の数も少なかった。周囲の方々に助けてもらったからこそ今があります。逆に言えば、そうやって助け合うチームワークの良さを、お客様に評価していただけたのかもしれないですね。一人でできることはたかが知れていますが、皆に助けてもらうことで大きな仕事ができる。それが良い関係につながり、チームワークの良さになっていくのだと思います。

常日頃、社長が周囲の方々に伝えていらっしゃることはありますか。

一番は、怪我がないようにということ。気を抜くと命に関わる事故につながりかねませんから、時に厳しい口調になってしまうこともあります。ただ、個性があり十人十色ですから、どうやったら上手く伝わるかなど、コミュニケーションについては日々模索中です。

多くの経営者が悩まれる部分なのかもしれないですね。ところで、先ほどから気になっていたのですが、こちらの水槽は随分と立派ですね！

この中で泳いでいるのは、アロワナという魚です。子どもが幼いころ、生き物を飼おうというので、最初は金魚を飼い始めたのです。そこから徐々に規模が大きくなっ

て、気がついたらこうなっていました(笑)。

今は、このような大きな水槽を置くための台を作っています。どうしても魚たちや水槽のほうが目立ちがちですが、安価で高品質な水槽台を作るのは難しいのです。実は、予てよりこうした趣味を仕事につなげたいと考えており、先日はYouTubeに動画をアップした所、多くの方から反響をいただきました。水槽を通じてたくさんの方との出会いがあり、とても嬉しですね。仕事というのは大変なこともあります。こうした楽しいこと、好きなことができれば、活力にもなると思います。従業員たちにも、どんなことでも良いから好きなことややりたいことがあれば教えてほしい、と伝えていきます。可能な限り、会社としても応援していきたいですね。そうすれば、従業員たちも楽しく仕事ができるのではないかと思います。まあ、言ってしまうと私が嫌なこととはしたくないからなのですが(笑)。

(笑)。仕事は長く続けていかなければなりませんから、楽しくできるのであればそれが一番ですね。最後に、今後について伺います。

配管工事にかかわらず、新しいことにとんだ挑戦していきたいです。今考えているのは、アクアリウム関係とドローン事業ですね。YouTubeなども活用しながらやっていきたいです。併せて、動画編集ができる方など、新しい従業員を迎え入れていくつもりです。

### check Point

### 好きなことをのびのびと

▼対談中、「好きなことをやるのが一番です」と語った藤原社長。とはいえ、自分だけが好きなことをやるのではなく、従業員にも好きなこともさせてあげたいと、「好きなことや、やりたいことがあれば教えて」と常日頃から伝えていているという。社長は、「好きなことであれば、努力も楽しくできると思いますから」と笑顔を見

せた。  
▼従業員が好きなことをのびのびとできれば、それが結果として会社の強みとなる。新たな発想が生まれて、配管工事に留まらないさらなる成長へとつながるかもしれない。従業員が心から楽しめる職場環境作りは、ひいては会社全体の成長につながっているのだ。



## ラッシャー板前 (タレント)

「時折冗談も交えながら、気さくにお話しくださった藤原社長。そのお人柄もあって、楽しい対談になりました！ そんな社長だからこそ、多くの方が助けになりたいと思われるのでしょうね。これからも、そんな社長のままでいてください！」

